

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 2 月 25 日

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	猪熊ひろか
研究課題	地域の活性化と地域資源				
研究キーワード	地域 活性化 地域資源	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	該当なし	
1. 研究成果の概要 本研究の目的は、地方空港と都市養蜂の接点としての産学連携による地域の活性化における、高大連携の可能性と意味を明らかにすることである。産学連携と高大連携について、事例をもとに考察した結果、高大連携が産官学連携の一部を構成すること自体に一定の意義が見いだされた（2. ①②）。 なお、高大連携・産官学連携を含む、本学を中心とした地域の活性化については、ESD 実践・研究として分析を行い、アクティブ・ラーニング、PBL、CBL といった観点から ESD 実践・研究の在り方と論点・展望を明らかにした（2. ③④⑤⑥）。					
2. 著書・論文・学会発表等 【著書・論文（査読付）】 ①吉竹弘行・猪熊ひろか・小野塚彩・元島智樹・黒澤このみ・國分美里，2024，「SDGs 社会における空港マネジメント-都市養蜂事業を活用した福島空港地域活性化への試行的研究」『エイジレスフォーラム』22，シニア社会学会，pp.31-39。 【著書・論文（査読無）】 ②猪熊ひろか，2025，「福島 S-HART 事業」，吉竹弘行・西尾淳・和田義人・猪熊ひろか編『叢書 SDGs と大学 3 安心・安全な都市地域づくり』，株式会社 CUC サポート，pp.170-179,181-182。 ③猪熊ひろか，2025，「解説論文 2024 年度千葉商科大学サステナビリティ研究会『実業界の SDGs 事情および千葉商科大学の ESD 実践』」『千葉商科大学サステナビリティ研究』1，千葉商科大学サステナビリティ研究所，pp.6-9。 ④猪熊ひろか，2025，「ESD 実践・研究の発信」『CUC View&Vision』59，千葉商科大学総合研究センター，pp.1-3。 【学会発表等】 ⑤猪熊ひろか，「ESD 研究の発信」，青山学院大学「SDGs / CE パートナリシップ研究所（SDGs / CE 研究所）」2024 年度成果報告シンポジウム（青山学院大学青山キャンパス），2025 年 1 月。 ⑥猪熊ひろか，「ESD 研究の発信」千葉商科大学総合研究センター研究フォーラム（千葉商科大学市川キャンパス），2025 年 2 月。					
3. 主な経費 研究を進めるために必要な関連書籍・OA 関連機器・学会費、調査の分析のために必要なソフトウェアなど。					

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

千葉商科大学 2024 年度定常的プロジェクト⑥「基幹研究サステナビリティ研究発表会 PJT」

(本文は2ページ以内にまとめること)